

財団法人

# 日韓文化交流基金 NEWS



**2002年日韓国民交流年**

ロゴマーク紹介、記念事業  
2002年度助成対象事業

**第1回日韓歴史家会議**

**図書出版助成事業『朝鮮語研究1』刊行**

**2002年度訪日・訪韓フェローシップ採用決定**

no. **21**

2002

The Japan-Korea Cultural Foundation



表紙作家紹介

# 金賢姫 (キム ヒョンヒ)

- 1946 韓国京畿道生まれ。18歳の時から、刺し子としての道を歩み始める
  - 1984 第9回韓国伝統工芸展に入選。以後毎年、奨励賞、特別賞などの受賞を重ねる
  - 1990 東京の高島屋にて「韓国伝統工芸展」招待展
  - 1994 国務総理賞を受賞
  - 1995 東京の韓国文化院にて個展
  - 1996 ソウルの一民美術館にて個展
  - 1999 『韓国のパッチワーク〜ボジャギ』出版(文化出版局)
- 現在、刺し子・ボジャギの「名匠」として作家活動を行うかたわら、伝統工芸建築学校にて後進の指導にあたっている

表紙作品



明珠チヨカッポ  
52x52センチ  
一九九七年

表紙撮影 縣 正三

# 日韓文化交流基金NEWS

## 目次

- 2 巻頭エッセイ  
日韓文化交流によせて 平山郁夫  
表紙作家紹介および表紙作品題名
- 3 第1回日韓歴史家会議
- 4 2002年日韓国民交流年  
ロゴマーク紹介、記念事業(4-6月)  
助成事業紹介  
2002年度助成対象事業
- 8 図書出版助成事業『朝鮮語研究1』刊行 野間秀樹
- 9 調査ノート  
日本における韓国・朝鮮研究  
東京大学大学院新専攻について 吉田光男
- 10 2002年度訪日・訪韓フェロシップ採用決定
- 12 日韓文化交流基金事業報告

日韓文化交流会議は、一九九九年に小淵総理(当時)と金大中大統領の合意によって設立された。

その背景には、当時、金大中大統領の政策によって、日本文化紹介の段階的開放政策が打ち出されたことがある。それと同時に、サッカーワールドカップの日韓共同開催を、お互いに成功させるための配慮もあった。

こうして、日韓文化交流会議のメンバーがソウル、東京と交互に会議を開くことになった。サッカーワールドカップを記念して、両国の国立博物館の交換展をはじめ、多くの企画が計画された。日韓文化交流会議は、最初から順調な滑り出しで進んだ。

数回を重ねて一応の目的が達成される見込みが立った頃に、日韓共同で「ソウル宣言」を会議の総意として発表しよう、案を捻った。

その矢先である。昨年の五月頃から教科書問題などが起こり、会議の先行きが停滞しはじめた。折角に、良好な日韓関係のもとで、日韓文化交流会議が順調に滑り出し、一定の成果が見えた時であるだけに、大変残念に思った。いろいろな文化交流の案件が途中で止まったり、延期されて実行の見込みが見られなくなった。

本来なら、このように行き詰まりとなった時に、本音で話し合う交流の場が必要であると思っている。今一度、日韓の歴史を正しく認識する必要がある。お互いに日韓の屈折し

### 巻頭エッセイ

## 日韓文化交流によせて

東京藝術大学学長

### 平山郁夫

た歴史を正しく認識し、承知しながら文化交流を行う姿勢が望まれる。

日本の古代史は、高句麗や百済などとの交流なくしては成り立ち難い歴史である。このように日本文化の歴史的背景をふまえて交流することが、お互いを理解しながら、尊敬の念をもって交流することに繋がることになろう。

身近な近現代史のみを見て日韓関係を論ずると、日本と韓半島の関係における歴史的経緯や、過程の積み重ねや、変遷の要因をうまく捉えることができない。東アジアにおいて、中国も含め、韓半島の歴史的視野に立つて考察することが、東アジアの共存共栄にも繋がってくる。

日韓文化交流会議の場をもって、日本側のこうした理念が伝わり、論議交流を進めると、さらに理解が進み真の交流が行われると信じている。



ひらやま いくお

一九三〇年、広島県生まれ。東京美術学校日本画科卒業。一九五三年院展初入選以来、日本美術院賞(大観賞)など受賞を重ね、一九六四年三十四歳で日本美術院に推挙された。一九七八年内閣総理大臣賞、一九九三年文化功労者、一九九六年日本美術院理事長、一九九八年文化勲章受章、一九九九年米スミソニアン協会のジェームス・スミソン賞を受賞。一九九九年より日韓文化交流会議副座長。

# 第1回日韓歴史家会議



二〇〇一年十一月二十二〜二十四日ソウルプラザホテルにおいて、第一回日韓歴史家会議が開催された。西国の歴史研究者の学術交流の場を拡充することを目的としたこの会議には、日本史・韓国史の研究者のみならず、西洋史・東洋史などの幅広い分野の研究者が参加した。

この会議は一九九七年より三年間活動を行った「日韓歴史研究促進に関する共同委員会」<sup>1</sup>の提言を受けて設置されたものであり、「歴史学国際委員会」<sup>2</sup>の日韓両国内委員会が中心となって準備を進め、今回、第一回会議が開催され

る運びとなった。

「一九四五以後の日韓両国における歴史研究の動向」というテーマの下、一日目には西洋史、東洋史、日本史・韓国史の三つのセッション別に、両国の研究史を概観する報告および討論が行われ、二日目には全体を総括する縦横討論の場が設けられた。会議での対話を通して、自国史と他国史の問題、歴史学と政治との関わり方、東アジアの地域設定、時代区分の問題などについて、両国の問題認識の共通点と相違点が明らかとなり、これらの課題について引き続き検討していくこととなった。第二回会議は二〇〇二年十月に東京で開催される予定である。

1 「日韓歴史研究促進に関する共同委員会」

日韓両国政府の委嘱により、両国間の歴史研究の促進を目的として設置された両国民間有識者の委員会。一九九七年七月に発足。三年間の活動を経て、「基礎情報・歴史資料へのアクセスの改善」「人材の育成」「歴史研究促進のための交流の場の拡充」の三つを柱とする提言を発表しその活動を終えた。

2 「歴史学国際委員会」

世界各国の歴史家が参加する国際組織。一九二五年に設立され、世界五十三カ国の国内委員会と関連の国際組織（第一次世界大戦史国際委員会等二十九組織）からなる。五年に一度「国際歴史学会議」を開催。

## 参加者

### 日本側（敬称略、五十音順）

明石紀雄（筑波大・アメリカ史）、石上英一（東京大・日本古代史）、岩崎宏之（常盤大・日本近代史）、榊山紘一（国立西洋美術館・西洋中世史）、河原温（東京都立大・ヨーロッパ中世史）、佐々木隆爾（日本大・日本現代史）、柴宜弘（東京大・バルカン史）、中塚明（奈良女子大名誉教授・日本近代史）、濱下武志（京都大・アジア近代史）、宮嶋博史（東京大・朝鮮史）

### 韓国側（敬称略、가나다順）

姜玉楚（仁荷大・西洋史）、朴元鎬（高麗大・中国史）、安輝濬（ソウル大・美術史）、呉星（世宗大・韓国近世史）、柳永益（延世大・韓国現代史）、劉仁善（ソウル大・ベトナム史）、李基東（東国大・韓国古代史）、李基白（学院院・韓国史）、李敏鎬（ソウル大名誉教授・西洋史）、全海宗（学院院・中国史）、鄭鉉栢（成均館大・ドイツ史）、池明観（翰林大・日本史）、崔柄憲（ソウル大・韓国仏教史）、崔韶子（梨花女子大・中国史）、洪承基（西江大・韓国中世史）

## 会議日程および発表者（敬称略）

### 11月23日

- 開会辞 車河淳（韓国側委員長、西江大名誉教授・思想史）
- 午前の部 西洋史 司会：李柱郢（建国大・アメリカ史）
- 日本における西洋史研究の動向 - 近現代史を中心に  
報告：西川正雄（専修大・ヨーロッパ現代史） 討論：林志茲（漢陽大・西洋近代史）
  - 韓国の西洋史研究半世紀 - 動向と展望  
報告：金榮漢（西江大・西洋近世史） 討論：川北稔（大阪大・英国近世史）
- 午後1部 東洋史 司会：朴英宰（延世大・日本史）
- 戦後日本における中国近現代史研究  
報告：久保亨（信州大・東洋近代史） 討論：曹秉漢（西江大・中国史）
  - 韓国の中国研究半世紀：動向と展望  
報告：李成珪（ソウル大・中国史） 討論：岸本美緒（東京大・中国近世史）
- 午後2部 日本史・韓国史 司会：李泰鎮（ソウル大・韓国近代史）
- 1945年以後の韓国史研究 - 発展的な韓国史像の追求と新しい研究方法の模索  
報告：閔賢九（高麗大・韓国中世史） 討論：井上和枝（鹿児島国際大・朝鮮史）
  - 戦後日本の維新史学 - 遠山茂樹『明治維新』（岩波全書）の場合  
報告：三谷博（東京大・日本近世近代史） 討論：金容徳（ソウル大・日本史）

### 11月24日

- 総合討論 司会：板垣雄三（日本側委員長、東京大名誉教授・中東史）、李元淳（ソウル大名誉教授・歴史教育）

# 2002年日韓国民交流年

日韓共催によるFIFAワールドカップが開催される

2002年は日韓国民交流年です。

日韓文化交流基金NEWSではこれから1年間、日韓国民交流年の取り組みについてお伝えしていきます。



日韓親善大使に任命された藤原紀香さん(右)と金允珍さん。1月28日東京・国立劇場小劇場で行われた「日韓国民交流年」開幕式にて  
(写真提供：国際交流基金日韓文化交流連絡室)

現在、日本と韓国の間を一日に一万人以上が行き来しているといわれます。韓国では日本大衆文化の段階的な開放が進んでいますが、日本でも韓国の映画や音楽、韓国料理が注目され、身近な日常生活で韓国に触れる機会が増えました。お互いの社会や文化への親近感が高まっている現在、さらに深い理解と日韓交流の楽しさをより多くの人々が共有できるように、さまざまな記念事業やイベントが各地で開催されます。

## ロゴマーク

基金では「2002年日韓国民交流年」をより多くの人々に知ってもらえるよう、ロゴマークを作成し、その頒布を行っています。

ロゴマーク付与の対象は、日韓国民交流年記念事業やその趣旨に合致する文化事業の広報制作物となります。ロゴマークの使用を希望する場合は、基金に申請してください。申請案内および申請書は基金にて配布しているほか、基金ホームページからダウンロードできます。

## 記念事業

ワールドカップ開催期間とも重なる4～6月は、これまでになく規模の大型公演や展示などが予定されています。ここでは日韓国民交流年記念事業に認定されているイベントを開催順に紹介します(2月末日現在)。

期間	事業名	会場
2月8日～4月7日	韓国大衆文化展	新潟・新津市美術館
2月20日～5月6日	近い国・日本	ソウル・国立民俗博物館
3月16日～5月6日	2002FIFAワールドカップ™ 開催記念日韓文化交流 特別展「韓国の名宝」	大阪歴史博物館
3月16日～6月16日	第24回企画展 コリアの 自然史 - 半島と日本を 結ぶ生きものたち -	ミュージアムパーク茨城県 自然博物館
3月21日～7月16日	2002年ソウルスタイル - 李さん一家の素顔のくらし -	大阪・国立民族学博物館

四月現在  
開催中の事業



日韓国民交流年

2002年日韓國民交流年記念事業(4~6月)

期間	事業名	会場	期間	事業名	会場
4月~6月	「韓国の色と光」展	韓国・ソウル市立美術館	4月16日~	韓国 国立バレエ団 初来日公演	神戸文化ホール(4/16) 京都公会館(4/18) 愛知県芸術劇場(4/19) よこすか芸術劇場(4/20) 東京文化会館(4/24~29) 千葉県文化会館大ホール (4/26)
4月1日~5日	第1回日韓対抗・中学高校生 ゴルフ選手権大会	栃木・ファイブエイト ゴルフクラブ	4月19日、21日	オペラ「春香」	神奈川県民ホール
4月1日~	演劇パパ・タラフマラ日韓 コラボレーション「Birds on Board」プロジェクト	福岡・イムズホール つくばカピオホール 東京・シアタートラム	4月20日、24日	アジアの平和と日韓障害者 文化交流のための愛の音楽会 (4/20)	水原・京畿道文化芸術会館 (4/20) ソウル・芸術の殿堂コンサート ホール(4/24)
4月5日~10日	大韓民国展	東京・京王百貨店新宿店 7階大催し会場	4月20日~5月16日	わらび座音楽パフォーマンス バンド「響」韓国公演 第二次ツアー	ソウル、大田、蔚山、議政府、 軍浦、昌原、龜尾、平昌
4月5日~	NANT A-COOKIN' BEATS ~ JAPAN TOUR 2002	名古屋市芸術創造センター(4/5~6) 東京・赤坂ACTシアター(4/9~21) 仙台・電力ホール(4/24) 新潟市民芸術文化会館劇場 (4/26~27) 福岡・ももちパレス(5/5~6) 高知市文化プラザかるぼーと (5/8)	4月26日~5月5日	国際フェスティバル 「利賀アジア芸術祭」	富山・利賀芸術公園
4月9日~5月19日	朝鮮王朝の美展	岐阜県立美術館	4月26日~	「心のやきもの 李朝」展	静岡・MOA美術館(4/26~6/9) 栃木県立美術館(6/15~7/14)
4月14日	2002全州・群山国際 マラソン大会	全州、群山			

期間	事業名	会場	期間	事業名	会場
5月2日~5日	第12回国際書道芸術展	東京・北とびあ	5月18日~	第7回 石川・文化の翼 「石川の陶芸ソウル展」 (5/18~26)	ソウル・芸術の殿堂
5月7日~	日韓宮中音楽交流演奏会	東京・国立劇場(5/7~9) 大阪・国立文楽劇場(5/12~13) ソウル・韓国国立国楽院 (5/22~24) 釜山文化会館大講堂(5/27~28)	5月21日~30日	日韓文化交流基金招聘 韓国教員訪日研修団	東京、京都ほか
5月9日~	NHK交響楽団・KBS 交響楽団 交換演奏会	ソウル・KBSホール(5/9) ソウル・芸術の殿堂コンサート ホール(5/10) NHK大阪ホール(5/28) 東京・NHKホール(5/30)	5月24日~7月14日	いま、話そう 日韓 現代美術展(仮称)	ソウル・国立現代美術館
5月10日	超・絶・技・巧! 津軽三味線大競演	かながわドームシアター	5月25日~	韓国大衆文化展	東京・世田谷美術館(5/25~7/14) 香川・高松市美術館(8/2~9/1) 福岡アジア美術館(11/21~2/2)
5月11日	日韓ガラコンサート 「海を越えて」 (タケミツメモリアル)	東京オペラシティコンサートホール	5月27日~6月30日	日韓・日中韓舞台芸術 コラボレーション フェスティバル2002	東京芸術劇場 ソウル・韓電アーツブル、 ハッチョンブル、ホームア ーツホール(予定)
5月14日~7月14日	日韓古美術品交換展 韓国国内展 「日本美術名宝展」	ソウル・韓国国立中央博物館	5月29日~6月3日	日韓美術展	横浜高島屋8階特別会場
5月17日~22日	日韓芸術家交流事業 「ドン・キホーテ」	東京・新国立劇場オペラ劇場			
5月18日	韓国・固城の仮面劇	かながわドームシアター			
5月18日~	2002両洋の眼展	尼崎市総合文化センター (5/18~6/9) 山形・天童市美術館(6/14~7/14)			



「韓国大衆文化展」はファッション、音楽、映画、テレビ、広告などを立体的に展示し、韓国サブカルチャーの現在を紹介する。会場では大衆文化の融合性を象徴する巨大ピピンバオブジェ(写真)が入場者を迎える(同展は4月7日まで新潟・新潟市美術館にて開催中)

期間	事業名	会場	期間	事業名	会場
6月1日	ドリーム・パークッション	かながわドームシアター	6月22日	韓国・江陵端午祭の主役たち	かながわドームシアター
6月3日~13日	日韓合同企画公演 「その河をこえて、五月」	東京・新国立劇場小劇場			
6月7日~30日	日・韓・中共同制作 ファミリーミュージカル 「海を越える妖怪たち」 日本公演(リメイク公演)	福岡・サンライズ杷木 滋賀・野洲文化ホール 東京芸術劇場中ホール			
6月8日	ソウルフィルハーモニック オーケストラ神戸公演	神戸文化ホール大ホール			
6月8日~7月31日	第6回大分アジア彫刻展	大分・愛の園生 朝倉 文夫記念公園			
6月11日~7月28日	2002FIFAワールドカップ™ 開催記念日韓文化交流 特別展「韓国の名宝」	東京国立博物館			

東京国立博物館の「韓国の名宝」展は、考古遺物、仏教彫刻、陶磁器、絵画、書跡など約270点を一同に展覧する。質量とともにこれまでにない水準の韓国美術展(同展は5月6日まで大阪歴史博物館にて開催中)。写真は、国宝 金冠(金冠塚出土)



## 助成事業紹介

近年の日韓交流は、その野の広がりやを反映して、企画内容・参加者ともに多様化している。その中で今回は、大学を基盤とした交流に焦点を当て、大学側と学生側それぞれの取り組みとして、高麗大学校日本学研究所のシンポジウムと、ソウル大・東大の合唱団によるジョイントコンサートを取り上げてみたい。

「境界を越えて 日本文芸研究の新たな地平」高麗大学校日本学研究所二〇〇一年度国際学術シンポジウム

高麗大学校日本学研究所は日本に関する総合的かつ体系的な研究をめざして、一九九九年に付設された研究施設である。今回の国際シンポジウムは二〇〇一年十一月二十四日に同大学国際館で開催された。シンポジウムのテーマである「境界を越えて 日本文芸研究の新たな地平」は、国際化・情報化という時代の変化の中で、閉塞感を強めている文学研究の状況に対し、韓国の日本研究者が能動的に対処しようという意図から出されたものである。日本人研究者も発表者として参加し、一國に限定された「国文学」ではなく世界文学の一つとして



文学の一つとして

## 2002年度助成対象事業

2002年度の助成事業の募集には、これまでで最も多い95件の申請があり、この中から、上半期・下半期あわせて40件への助成が決定いたしました。

なお、2002年度下半期（10月～2003年3月）実施分の事業については、7月1日から8月1日の期間にも募集を行います。

青少年・草の根交流 17件

事業名	申請団体	実施時期	場所
アジアの平和と日韓障害者の文化交流のための「愛の音楽会」	特定非営利活動法人 NPO ゆきわりそう	4/18-4/25	水原、ソウル
World Cup 開催記念 韓日合唱公演	ふじの国からの合唱団 (静岡ババ&レディーズコーラス)	5/17-5/20	ソウル、城南
第10回記念 全国身体障害者野球大会(日韓交流アジア大会)	日本身体障害者野球連盟	6/1-6/2	グリーンスタジアム神戸
第6回アジア環境・文化交流会 (韓山モシ文化祭作品交流展)	特定非営利活動法人 アジア環境保全センター	6/1-6/6	舒川郡・韓山モシ館
釜山8大学大学院生日本語・日本文化研修	麗澤大学	7/11-7/23	麗澤大学、狛江市
日韓歌声交流35周年記念 徳島青少年少女合唱団 第6回韓国公演	徳島青少年少女合唱団	7/26-7/29	ソウル・LGアートセンター
八王子ぞうれっしゃ合唱団韓国訪問演奏会	八王子ぞうれっしゃ合唱団	7/28-8/1	釜山、ソウル
東アジア四大学フォーラム ソウル大学校国際サマーキャンプ	東京大学東アジア四大学フォーラム 日本委員会	8/1-8/14	ソウル大学校
横浜国立大学・ソウル市立大学校学生交流セミナー	横浜国立大学教育人間科学部 須川研究室	8/1-9/1	横浜、ソウル
第18回日韓学生フォーラム	第18回日韓学生フォーラム	8/4-8/18	ソウル、その他
第17回日韓学生会議東京大会	第17回日韓学生会議東京大会実行委員会	8/4-8/21	東京、その他
2002年日韓国民交流年記念事業～大阪・釜山青少年友情の絆～ 帆船「あこがれ」セイル・トレーニング	大阪・釜山「青少年友情の絆」実行委員会	8/6-8/29	大阪港、釜山港、大阪国際交流センター、その他
「はあてい古里・日韓ふれ愛の翼」交流事業	どんどこ座・芙蓉の会	8/8-8/11	清州市
日韓環境ギャザリング第5回	全国青年環境連盟(エコ・リーグ)	8/12-8/21	茨城県さしま少年自然の家
日韓国民交流の年「玄海人まつり」	玄海人クラブ(韓国文化交流センター)	8/19-8/25	佐賀・有田町、伊万里市、鎮西町、山内町
日韓合同セミナー「日韓の相互理解における普遍性と特殊性」	韓国外国語大学校 国際地域大学院 (日本文化探求班)	8/29-9/1、 2003/1/9-1/12	韓国外国語大学校、国際基督教大学
北京・ソウル・東京・ハノイ 4大学合唱祭2002	東京大学音楽部コールアカデミー	10/8-10/14	ソウル



「故郷の春」「赤とんぼ」に大きな拍手がわきあこつていた。

ではヘンデルの「メサイア」のハイライトを合唱した。東京公演ではアンコールに合同で歌った

準備をへて実現した。学生たちは公演前に渡航し、合宿をしながら合同練習を行い当日を迎えた。コンサートでは、自国の伝統音楽のモチーフを生かした曲を演奏したほか、合同ステージ

2002年ワールドカップサッカー日韓共催記念 ソウル大学校混声合唱団・東京大学コルアカデミージョイントコンサート

「日本文学」、そして、特定の方法論に埋没することなく時代やジャンルの壁を越える日本文学研究の可能性を提示した。

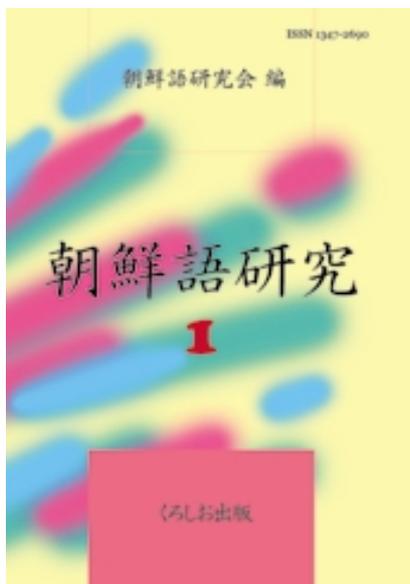
シンポジウム・国際会議 6件

事業名	申請団体	実施時期	場所
批判と連帯のための東アジア歴史フォーラム	批判と連帯のための東アジア歴史フォーラム(日本委員会)	4/19-4/21、10月	川奈、韓国
京都橘女子大学開学35周年記念日韓シンポジウム 「韓半島と倭-渡来人、キトラ古墳、前方後円墳、梵鐘」	京都橘女子大学	5/18	ばるるプラザ京都
2002年東アジア比較文学京都フォーラム	日本比較文学会	6/13-6/17	京都造形芸術大学
日韓合同授業研究会第8回交流会	日韓合同授業研究会	7/26-7/31	江華島周辺
日本文化研究の方法論構築方案 高麗大日本学研究所2002年度国際学術シンポジウム	高麗大学校日本学研究所	11/6	高麗大学校国際館国際会議場
第4回日韓学術交流セミナー	日本大学	11/12-11/13	日本大学会館大講堂

芸術交流 17件

事業名	申請団体	実施時期	場所
2002マスクロードプロジェクト真伎楽韓国公演	マスクロードプロジェクト 「真伎楽」実行委員会	4/2-4/7	扶余・クドゥレナルド公園、ソウル・景福宮
- きものと韓服による - 志村ふくみ・イヨンヒ展	志村ふくみ・イヨンヒ展実行委員会	4/10-4/29	大分県立芸術会館
パパ・タラフマラ日韓共同制作 「Birds on Board」プロジェクト	パパ・タラフマラ	4/10-6/24	つくば、ソウル、大田、蔚山、東京
T・E・A・M アジアの紙と現代美術	現代芸術研究会	4/14-5/5	福井市美術館アートラボふくい、さばえ現代美術センター
オペラ「春香」上演 日韓芸術交流推進(合同制作合同公演) 「韓国の巫俗と芸能」展	オペラ「春香」上演実行委員会 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	4/19-4/21 5/15-6/15	神奈川県民ホール 早稲田大学演劇博物館
月光舎/韓国公演「啼く月に思ふ」	月光舎	5/16-5/19	ソウル・明洞倉庫劇場
韓国大衆文化展	朝日新聞社文化企画局	5/25-2003/2/2	世田谷美術館、高松市美術館、福岡アジア美術館
イレブン・イレブン・コリア・ジャパン・ コンテンポラリーアート2002展	イレブン・イレブン・コリア・ジャパン・ コンテンポラリーアート2002展実行委員会	5/30-6/30 7/22-8/10	ソウル、東京
World Wide Network Art 2002	JAPAN = KOREA Network Art 2002実行委員会	6/7-7/31	ソウル・art center nabi、 京都・IMA(Institute for Media Art)、 福井・福井市美術館
宮島達男個展	株式会社白石コンテンポラリーアート	6/7-8/25、 9/6-11/11	慶州・Artsonje Museum、 ソウル・Artsonje Center
新唱劇「玄海灘に咲いた梅花」日本公演	日韓・日中韓PAC2002実行委員会	6/18-6/25	東京芸術劇場中ホール
写真交流展「Asian Crossing: Vol.1 韓国×日本」京都展	写真交流展「Asian Crossing」運営委員会	6/18-7/12	京都芸術センター
2002年サッカーW杯日韓大会記念日韓文化交流公演	WE LOVE THE WORLD	6/29	神奈川県立青少年センター
日韓国民交流年記念事業「韓国の色と光」展	「韓国の色と光」展実行委員会	7/19-9/16、 11/23-12/22	愛知県美術館、大阪・ATC ミュージアム
ドラマ「青桐の樹の下で」 広島の語り部・沼田鈴子、世界巡礼の旅 韓国公演	国際青年演劇センター	9/3-9/9	ソウル・国立劇場
日・中「琵琶楽」の韓国への紹介事業	日・韓・中「琵琶・弦楽器」の交流団	9/17-9/23	ソウル

# 『朝鮮語研究 1』刊行



基金では、図書を通じた韓国理解の深化を目的として、二〇〇一年度より図書出版助成事業を開始しました。この制度は日本での韓国理解につながる図書や、日本における韓国・朝鮮研究の成果を著した図書を支援の対象としており、事業が始まって以来、幅広い分野からの申請を受けています。そして、このたび出版助成の第一号として、くろしお出版より朝鮮語研究会による『朝鮮語研究1』が刊行されることになりました。

図書出版助成事業の二〇〇二年度分の募集はすでに締め切りましたが、二〇〇三年度については今年十二月に行う予定です。

## 朝鮮語研究会編『朝鮮語研究1』

本書は、朝鮮語研究会の最初の論文集である。朝鮮語研究会は、日本における第一線の朝鮮語字研究者をほぼ網羅した朝鮮語字研究者

の学会である。一九八三年に設立、一九九九年から正式の学会組織として発足した。事務局は設立以来、東京外国語大学に置かれており、初代・三代の菅野裕臣東京外国語大学教授(当時)、二代の故・志部昭平千葉大学教授(当時)を経て、現在の会長は一九九七年十二月より東京外国語大学教授である筆者が務めている。研究会は基本的に毎月一回、年に十回ほど開催され、二〇〇二年一月で百八十四回を迎える。研究会では日本全国の研究者はもちろん、韓国、アメリカ、ロシアなど、海外からの発表者も多々迎えている。一人の研究者の一時分から一時間半の発表に対し、十分から四十分ほどの討論を行うという、極めて実質的な学術研究の場となっており、ここから巣立っていった研究者も数多い。一九九八年十一月に二日間にわたって行われた百五十回記念大会には、約百名の研究者、学生が集った。こうした学術研究の最先端を毎年一度ずつ集約し、論文集として単行本の形で世に問うこととなった。

本書は公募により集められ、幹事会による審査を経た諸論考からなる。現代韓国語を扱った中西恭子(ソウル大学校博士課程)、「現代朝鮮語の連体形語尾」について、村田寛(ソウル大学校博士課程)、「現代朝鮮語の<gi> sjakadav形について」は、文法研究の論考である。また十五、十六世紀の中期朝鮮語を扱った中島仁(東京外国語大学博士課程)

「中期朝鮮語の<と>語幹について」、趙義成(梟立新瀉女子短期大学講師)、「中期朝鮮語アクセント小致」、伊藤智ゆき(東京大学博士課程)、「六祖法寶壇經諺解」の句音調」は、文法論と音論に関する成果である。さらに通時的な研究である宋喆儀(ソウル大学校教授)、「用言<sisse>の通時的発達について」、張允熙(ソウル大学校韓国文化研究所研究員)、「韓国語疑問法語尾の文法史」などもあって、本書が対象とする幅は広い。韓国からの投稿原稿も含まれており、現在の研究の国際性が窺えよう。日本語だけでなく韓国語での論考を掲載している点からも、国際性が見て取れる。いずれの論考も、同時代の韓国語研究の最新の成果である。本書により、韓国語研究の現段階を知ることができよう。

本書には巻末に、研究会の小史を付した。小史を通してこれまでの研究会の歩みを見ると、韓国語研究、韓国語教育に対して朝鮮語研究会の果たした役割が決して小さくないことがわかっていただけるだろう。日韓文化交流基金の助成は、本書を通じて結ばれる多くの人々へと、その高き志が伝わってゆくものと信ずる。

朝鮮語研究会会長  
東京外国語大学教授 野間秀樹

## 日本における韓国・朝鮮研究

## 東京大学大学院新専攻について

東京大学大学院人文社会系研究科教授 吉田光男

東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻は、本年四月に開設された韓国朝鮮学の専門的教育研究機関である。日本では国立私立大学七校に韓国朝鮮の専門学科・コースが設置されているが、大学院における専門組織は本専攻が最初で唯一のものである。本専攻は大学院のみで学部学生をもたず、韓国朝鮮に関する基礎研究の充実、専門的研究者と高度専門職業人の養成、韓国朝鮮との文化交流の推進などを目的として開設された。

本専攻は教授四、助教授四、客員教授

一、助手一の合計十名で構成され、学生定員は修士課程十二名、博士課程六名（二〇〇四年度から募集）である。今年度のみは、四月十三日に願書受付で、四月十二日に修士課程の入学試験を行う。

大学が縮小傾向にある中での新専攻開設は快事であり、NHK・KBS・東亜日報など日韓のマスコミがいつせいに報道した。本専攻の開設は、大学入試センター試験の韓国語導入とともに、日本の韓国朝鮮重視姿勢の表れとして韓国では好意的に評価され、韓国朝鮮研究の基盤造成とともに、日韓の友好関係増進という点でも重要な意義をもっている。

本専攻の概要はつぎのようである。

組織 三専門分野で構成される。

1 韓国朝鮮歴史社会専門分野「教授・吉田光男（歴史学）、服部民夫（社会学）、助教授・早乙女雅博（考古学）、六反田豊（歴史学）、助手・森平雅彦（歴史学）」古代から現代に至るまでの韓国朝鮮の歴史と社会を探究する。

2 韓国朝鮮言語思想専門分野「教授・川原秀城（哲学）、助教授・福井玲（言語学）、客員教授・任洪彬（言語学、ソウル大学校教授）」韓国朝鮮の伝統と現代の文化を探究する。

3 北東アジア文化交流専門分野「教授・村井章介（歴史学）、助教授・本田洋（文化人類学）」古代から現代までの朝鮮半島を中心とした北東アジアの文化交流を探究する。

教育目標

1 複合的な教育 複数のディシプリンによる複合的教育を行い、狭い専門分野を越えた広い視野をもち、新しい韓国朝鮮研究を推進する人材を養成する。

2 優れた現地感覚の養成 韓国朝鮮語の実践的運用能力を基礎とした現地活動を重視し、韓国朝鮮に対する優れた現地感覚を身につけた人材を養成する。

東京大学には一九一六年に日本で最初の朝鮮史講座を開設し、その伝統を受け継いできたという歴史がある。一九九三年、文

学部附属文化交流研究施設に朝鮮文化部門が設置され、本専攻誕生の母体となった。同部門は『朝鮮文化研究』（年刊、現在九号）で研究成果を発表しており、執筆者は二十一大学研究機関所属の三十名にのぼる。本専攻を含めて東京大学には二十名ほどの韓国朝鮮研究専門家が在籍し、東京大学韓国朝鮮学研究協議会を結成している。東京大学は日本最大の韓国朝鮮研究教育拠点である。

朝鮮文化部門は、東京大学とソウル大学校・延世大学校・イリノイ大学との間の交流協定を締結し、韓国国史編纂委員会や韓国精神文化研究院と友好関係を結ぶなど、国際交流も推進してきた。韓国の文化功労者李基文先生をはじめソウル大学校から客員教授九名を招聘し、日韓文化交流基金の援助を得て十四名の韓国人研究者を受け入れてお世話してきた。友好関係にある外国の大学は釜山大学校など多数にのぼる。国際交流におけるこのような成果を受け継ぎ発展させることも本専攻の重要な使命である。



よしだ みつお

1946年、愛知県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位修得退学。東京外国語大学朝鮮語学助教授を経て、現職（韓国朝鮮文化研究室所属）。専門は韓国近世社会史。



# 訪韓フェローシップ採用決定

2002年度の訪日・訪韓研究支援（フェローシップ）の採用者が決定いたしました。

基金フェローシップには、人文社会科学分野の日本研究を行う韓国の研究者を対象とした「一般」と、日本と韓国の歴史、両国関係史、朝鮮半島研究を行う、日韓双方の研究者を

対象とした「歴史」の2種があります。

2002年度フェローシップの総応募件数は、訪日92件（一般66件、歴史26件） 訪韓6件、そのうち訪日は34件（一般20件、歴史14件） 訪韓は4件が採用されました。

## 日韓学術文化青少年交流事業（一般）（氏名が나다順）

氏名	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
高日東	韓国開発研究院研究委員	北韓（北朝鮮）経済の軟着陸のための韓日両国の役割と協力方向の模索 (慶應義塾大学法学部)	2002/4/1-2002/10/31
郭大基	東釜山大学観光日本語専攻副教授	日・韓文化における中国思想の影響に関する研究 俳諧と時調の比較を通して (九州大学大学院人文科学研究院)	2002/4/1-2003/3/31
琴喜淵	ソウル市立大学国際関係学科副教授	韓国・中国・日本の腐敗に関する比較研究：歴史的淵源と構造的特性 (慶應義塾大学地域研究センター)	2002/7/15-2003/7/14
金廣在	光州日報記者	デジタル新聞産業の価値鎖模型に関する韓日間比較研究 (上智大学文学部)	2002/4/1-2003/3/31
金容儀	全南大学校人文科学大学日語日文学科助教授	沖縄地域における民俗宗教 (沖縄国際大学総合文化学部)	2002/4/1-2002/8/31
金正昊	仁荷大学校国際関係研究所特別研究員	民主主義の発展過程に関する日韓比較研究 (慶應義塾大学法学部)	2002/4/1-2003/2/28
朴駱圭	ソウル大学校人文大学美学科教授	日本人の自然（山水）観と芸術的表現の研究 (東京大学大学院人文社会系研究科)	2002/9/1-2003/8/31
朴峰寛	釜山女子大学社会福祉学科専任教授	大都市（自治体）における地域福祉計画の策定に関する 国際比較研究 日本の札幌市と韓国の釜山市を中心に (北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科)	2002/4/1-2003/3/31
朴世訓	韓国地方行政研究院客員研究員	戦前期日本と朝鮮における都市社会政策の比較研究 (東京大学大学院工学系研究科)	2002/5/1-2003/4/30
梁貞淑	梨花女子大学校博士課程	戸主制度廃止後の日本社会相の変化と韓国における 戸主制度の廃止可能性について (東京大学大学院法学政治学研究科)	2002/4/1-2003/2/28
尹恵順	延世大学校大学院教育学科博士課程修了	朝鮮総督府による青少年教育政策の形成と展開 「植民地教育における近代」とは何かを明らかにするために (京都大学大学院人間・環境学研究科)	2002/4/1-2003/3/31
李東喆	東義大学校商経大学経営学部助教授	日韓の児童消費者の消費特性に関する比較研究 (早稲田大学商学部)	2002/6/20-2003/5/19
李明姫	新羅大学校日語教育科副教授	ウェブ基盤日本語聴解教育のためのコンテンツとツール開発 (東京学芸大学留学生センター)	2002/10/1-2003/9/30
李相揆	慶北大学校人文大学国語国文学科教授	パーソナル・コンピューターを活用した韓国方言語彙資料の分析と地図作製 (東京大学大学院人文社会系研究科)	2002/9/1-2003/7/30
李章雨	釜山徳明情報女子高等学校外国語部長	日本語教育におけるゲームを取り入れた授業模型の開発研究 (東京学芸大学教育学部)	2002/9/1-2003/8/31
李知映	University of Pittsburgh博士課程	新しい外国人労働者と「まちづくり」：現代日本における コリアン・ニューカマーのケーススタディを通じて (東京大学大学院総合文化研究科)	2002/12/1-2003/11/30
鄭炳説	明知大学校国語国文学科助教授	近世日本人の韓国語学習に使用された韓国古典小説資料の研究 (東北大学東北アジア研究センター)	2002/6/1-2002/8/31
趙允得	工房ChejuIndara代表	韓国（済州）・日本陶器の時代別交流発達過程と美意識の文化史的比較研究 (滋賀県立陶芸の森創作研修館)	2002/4/1-2003/3/31
崔殷範	国際海洋法学会理事	日本の「北方領土」問題に関する研究 (慶應義塾大学法学部)	2002/4/1-2002/8/31
片茂鎮	檀国大学校語文学部日語日文学科教授	交隣須知の総合的研究 (麗澤大学)	2002/9/1-2003/8/31

# 2002年度訪日

## 日韓平和友好交流計画（歴史）

### 訪日フェローシップ（氏名が나다順）

氏名	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
姜龍範	延辺大学東方文化研究院副院長	朝鮮半島をめぐる国際関係の新たな展開 - 朝鮮半島に対する日本の政策を中心に (早稲田大学アジア太平洋研究センター)	2002/4/1-2003/3/31
金強一	延辺大学政治学部学部長	日朝関係の歴史的展開と環日本海多国経済協力体形成の可能性に関する研究 (静岡県立大学国際関係学部)	2002/4/1-2003/3/31
金白永	ソウル大学校大学院社会科学大学院研究生	伝統的都邑から植民地首都へ、京城の変化過程に対する研究 植民地帝国日本の近代都市計画の影響を中心に (京都大学大学院人間・環境学研究所)	2002/4/1-2003/3/31
柳俊苺	ソウル大学校大学院国史学科非常勤講師	近代における都市支配構造の形成に関する韓日比較研究 (東京大学大学院人文社会系研究科)	2002/4/1-2003/3/31
徐碩培	University of California, Los Angeles博士課程	戦時期朝鮮における朝鮮知識人の植民地文化認識 (京都大学人文科学研究所)	2002/4/1-2003/3/31
徐賢珠	全南大学校博物館常任研究員	韓国栄山江流域と日本近畿・中部地方の3～6世紀古墳文化 比較研究 - 出土遺物を中心として - (奈良県立橿原考古学研究所)	2002/4/1-2003/3/1
宣石悦	釜慶大学校非常勤講師	『三国史記』から見た「倭」と「新羅」との関係 - いわゆる「初期記録」の紀年問題と関連して (国立歴史民俗博物館)	2002/4/1-2003/3/31
成正鏞	忠南大学校百済学教育研究団専任教授	三国時代の百済と倭との交渉及び軍事組織の比較研究 - 古墳出土品からみた武器・武具・馬具体系と所有関係の比較分析を中心に (京都大学大学院文学研究科)	2002/12/1-2003/11/30
李明輝	成均館大学校経済学部研究員	1920～30年代の円ブロック内における株式取引所の 制度的特徴と連繋に関する研究 (京都大学大学院経済学研究科)	2002/4/1-2003/3/31
李宇泰	ソウル市立大学校国史学科教授	韓日古度量衡制の比較研究 (東京学芸大学)	2002/8/1-2003/7/31
鄭成一	光州女子大学校助教授	韓・日間における人的・物的交流システムの歴史的分析 (慶應義塾大学文学部)	2002/4/1-2003/2/28
千得琰	全南大学校工科大学建築学科教授	百済時代石塔と日本古代木塔に関する比較研究 (京都大学大学院工学研究科)	2002/8/10-2003/8/9
河廷龍	高麗大学校垂細垂問題研究所研究員	『三国遺事』の日本原典と日本関係記事について - 『三国史記』等諸史料との比較を含めて - (滋賀県立大学人間文化学部)	2002/8/28-2003/8/27
韓圭哲	慶星大学校文科大学人文学部教授	8～10世紀における渤海と日本の交渉史 (國學院大学大学院文学研究科)	2002/4/1-2003/3/31

### 訪韓フェローシップ（氏名五十音順）

氏名	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
庵途由香	津田塾大学大学院国際関係学研究所 博士課程	朝鮮における戦争動員政策：朝鮮内の労働力動員を中心に (高麗大学校民族文化研究院韓国史研究所)	2002/4/1-2003/3/31
伊藤亜人	東京大学大学院総合文化研究科教授	韓国における伝統文化と地方自治 (ソウル大学校比較文化研究所)	2002/4/1-2002/12/31
菅野修一	帝塚山学院泉ヶ丘高等学校教諭	李氏朝鮮王朝時代社会経済史 (ソウル大学校韓国文化研究所)	2002/4/1-2003/3/31
邊恩田	関西外国語大学外国語学部助教授	パンソリと古小説の歴史的研究 (梨花女子大学校人文学部韓国語文学研究所)	2002/4/1-2003/2/28

# 日韓文化交流基金事業報告

## 日韓青少年交流ワークショップ

韓国語を学習している日本の高校生と東京韓国学校高等部の生徒の合宿交流プログラム「韓国語でノジマ2」が三月九日 十日の二泊二日の日程で、横浜市野島青少年研修センターで開催されました。このプログラムでは、日本の高校生が韓国語の学習に具体的なモチベーションを

もてるように、期間中韓国語を通じてコミュニケーションすることを目標にしています。今回は、演劇ワークショップを取り入れて、楽しみながら韓国語のスキルアップを行うとともに、イベントを通して日韓の高校生が友情を育みました。

## 訪日団

団体名	計	男	女	期間
韓国高校生	20	8	12	1/9-1/16
釜山日本語弁論大会 入賞者等	20	6	14	1/22-1/31

## 訪韓団

団体名	計	男	女	期間
大学生(3)	20	6	14	3/5-3/14
大学生(4)	20	4	16	3/19-3/28
青少年	15	6	9	3/25-4/1

## 刊行物

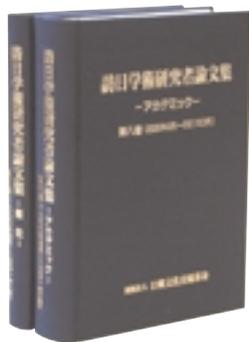
この時期に以下の報告書が刊行されました。

### 訪日学術研究者論文集

アカデミック 第八巻(二〇〇〇年四月) 二〇〇一年三月)

歴史 第五巻(二〇〇〇年四月) 二〇〇一年三月)

二〇〇一年三月)



### 第14回日韓・韓日合同学術会議記録

(二〇〇一年十一月九日 十一日開催)



1 ~ 3月

## 図書センター

図書センターの二〇〇二年度の臨時休館は、九月二十四日 二十七日です。この時期に、館内整理などの作業を行いますので、閲覧室、貸出、レファレンスサービスの提供はできません。これ以外に臨時休館が増える場合は、センター内掲示、ウェブサイトでお知らせいたします。

## 基金ウェブサイトアドレスが変わりました

当基金のインターネットウェブサイトアドレスが、「Japan-Korea Cultural Foundation」の頭文字をとった短いアドレスになりました。サーバを強化し、今後の情報提供に備えました。

新アドレス

<http://www.jkcf.or.jp>

発行 (財)日韓文化交流基金  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目12番1号  
虎ノ門ワイコビル3F  
電話 03-5472-4323 FAX 03-5472-4326  
発行日 2002年4月1日